

ま え が き

平成18年12月の教育基本法の改訂により、「幼児期の教育」の項目が新設され、その重要性が明確に規定されました。また平成19年6月の学校教育法では、幼稚園が学校教育の最初に位置づけられ、義務教育及びその後の教育の基盤であることが一層明確になりました。

このことを受け、平成20年3月には、幼稚園教育要領が改訂されました。改善の具体的事項では、発達や学びの連続性の観点から「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続」「体験と言葉の重視など子どもや社会の変化に対応した幼稚園教育の充実」が示され、家庭や地域の教育力の向上を図る観点から「子育て支援と預かり保育の充実」が示されています。

本園では、平成16年度から3年間「幼児期の『学び』を探究」を研究テーマとして、子どもが遊びの中で何を学んでいるのかを探ってきました。

幼稚園には、「教科」というものはありません。分けられていない総合的な学びが「遊び」であるからです。子どもは、この「遊び」の中から多くのことを学んでいます。遊びを通してさまざまな知識を獲得し、社会を知り、自然を理解し、そのことによって子どもなりの生活範囲を拡大していきます。遊びの過程で肉体的な力をのばし、理性や判断力を確かなものにしていきます。さらには集団のなかでの自己の役割や位置づけを自覚していきます。

子どもが遊びを通して様々な知識を獲得し、技能を身につけていくのは、とりもなおさず遊びの過程が学習の過程であることを意味します。遊びは強制されるものではなく、子どもが自発的に、しかも主体的になって活動しなければなりません。知らないことを知ろうとし、できないことを成し遂げようとし、技術をへたなものを上手にしようと考え、大勢の仲間とうまくやってみようとし、子どもは、意欲に支えられた生活なのです。

3年間の「学び」の研究から、子どもたちが遊びを通して様々なことを学んでいることが明らかになりました。しかし、学びの連続性に関しては、さらに研究を継続していかなければなりません。私達は、幼稚園教育においては小学校以降の子どもの発達を見据え、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通して行うことが重要であると考えています。そこで昨年度から、幼児が幼稚園生活を通して、幼児期にふさわしい健やかな成長を促すことができるカリキュラムを明らかにしたいと考え、「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」をテーマに掲げ、研究を進めています。

また本園は昨年度と同様、6月と11月の2回、保育を公開いたします。私たちの取り組む姿を見ていただければ幸いです。

どうか忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただきますようお願いいたします。

最後に、ご指導いただきました諸先生方、ご来会の皆様に御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成21年6月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 篠原 秀夫